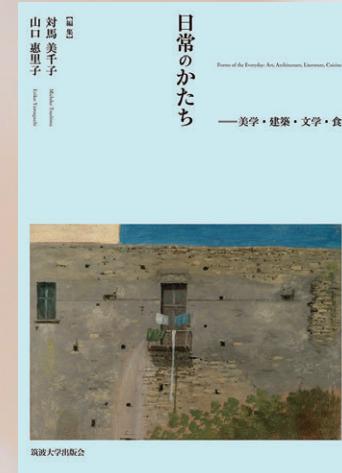


日常のかたち

— 美学・建築・文学・食 —

対馬 美千子
山口 恵里子
【編集】



日常のかたち
—美学・建築・文学・食—
対馬 美千子
山口 恵里子
筑波大学出版会

日々の生活の中でわたしたちは、歩き、詩作し、住まい、音を奏で、食べ、死者とも交流する。他者に焦がれ、あるいは背を向けながら、歎びも痛みも、愛おしさも怒りも日々に埋め込んでゆく。そのような毎日は変奏されながら、日々の襞の折り目を豊かにたおやかに重ねてゆく。本書は、そのような襞のなかに、美学・建築・文学・食を通して分け入り、日常を見つめ直している。

第一部 美学

日常の美学

齋藤 百合子

キャンプ・ライフのモダニズム

アン・マクナイト
(ノミシエルデネ・エンヒバイヤル 訳)

——ミネ・オーラボ『市民13660号』

ミリアム・サス

共に「住まうこと」

(早川唯 訳)

——西内健善と日常の美的想像力

足の跡、手の跡、息の跡

山口 恵里子

——リチャード・ロングの彫刻における消散

半田 るみ子

建築のファイナリティと適応

三宅 敏子

『ポインントンの蒐集品』に表象された美の民主化をめぐる攻防

長谷部 寿女士

ヴィクトリア朝イギリスのドローイングルームと

スピリチュアリズム——ミドルクラス女性の交靈会

——ハウスのパラダイムシフト

竹谷 悅子

ノスタルジア

宮本 陽一郎

——ジョン・チーヴァー『泳ぐ人』における家庭と不在の詩学

中田 元子

第三部 文学
共有する日常

対馬 美千子

——女エレン・ジョンストンの詩と読者

馬籠 清子

日常のサウンドスケープ
——ベケットのラジオ劇『すべて倒れんとする者』

青柳 悅子

ピアノのお稽古とその影響力
——作家になつたアメリカの少女たち

五十嵐 泰正

日常の表現の渴望と国民共生意識の醸成
——アルジェリアの日本式マンガ創作

イ・ヒヤンジン
(上田由至 訳)

第四部 食

ヒースクリフの飢え
——『嵐が丘』の日本語訳にみる食

ジュディス・バスコ
(ノミニエルデネ・エンヒバイヤル 訳)

